

ふもと 織姫山の麓から

法玄寺報
第42号
令和3年春

写経と写仏



コロナ禍の中で、不安になったりして体調を崩す方もいるとマスコミなどで報じられています。また外出自粛などで思うように両親や子供たちと面会できない方も多いようです。また法事を行う際でも市外や県外とくに首都圏に住む親族を呼ぶことを控える方もおられます。このようにコロナ禍は私たちの結びつきを弱めてしまいました。

コロナ禍の収束が見えない今、檀家の方々と心を寄せ合い、また心の平安を取り戻すため寺ができることは何かを考え、写経と写仏を用意しました。

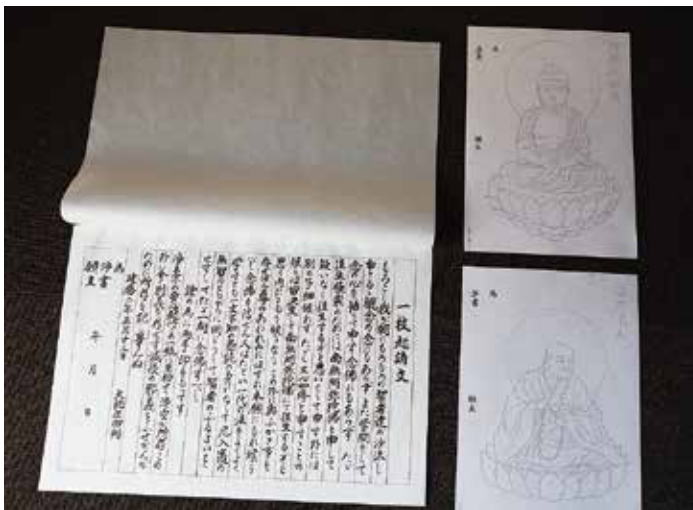
写経は法然上人が亡くなる直前に残された「一枚起請文」です。これは浄土宗の教えの根本を分かりやすく表した文であり、また「声に出して読みたい日本語」という本でも紹介された名文です。

なお浄土宗栃木教区教化団は、コロナ禍における写経の意味を以下のように説明しています。

《「経典」を「書き」「写す」ことは大切な善行であり、功德を積むことであり、ひいては【大願を成就する】ことでもあります。コロナの災禍だけではなく全ての災禍が治まり、また笑顔で笑って過ごせる日々が一日も早く来ることを願う》

写仏は「仏さまの姿をなぞりながら気持ち落ち着かせ仏さまに心を寄せるものです。今回は、阿弥陀如来、観音菩薩、勢至菩薩、薬師如来、地藏菩薩それに浄土宗を開かれた法然上人の6種の写仏をご用意しております。

写経、写仏については当山までお申し込み下さい。



写経と写仏の見本

和泉屋さん新装オープン



通り3丁目にあるワイショップ和泉屋は檀家の泉壮一郎さんが経営しています。足利の本格的なワイン専門店として評判のお店です。

この和泉屋が全面的に改装して、昨年の10月末に新規オープンしました。設計は同じ建物の2階にアトリエを構えるデザイナーの鶴見裕也さんです。

明るく開放的な店内の一方の壁面には、上下いっぱいにくりぬかれた穴にワインが寝かされ、中央の棚にはどのワインか分かるようボトルが立てられています。店の中央はソーシャルディスタンスを考えて広々と空けられ、樽の上にワインが放射状に並べられています。

和泉屋の若主人の賢一さんは足利ミッドタウン商店会の会長を務め、北仲通りのお店を中心に地元商店街を元気にしようと頑張っています。最近では、非常事態宣言が出され、時間短縮を求められている飲食店とのコラボで「おうちで ほろ酔いしませんか」を企画してワインと料理を宅配しました。



ワインショップ和泉屋の内部です

しゅんしゅんクリニックP



檀家の宮本忠明さんの息子さんの宮本駿さんは、「しゅんしゅんクリニックP」の芸名でお笑い芸人をしています。群大医学部を卒業したお医者さんですが、どうしてもお笑いをやりたいとのことで吉本興行に入り、お笑いを学びました。芸名のクリニックは、医者ならではのものです。

宮本駿さんは吉本坂46のメンバーでもあり、CDも出ています。また「病院あるある」も出版しました。医者にしてお笑い芸人、歌い、本も出版するのでからマルチタレントです。

当山の檀家の縁者には、同じくお笑い芸人のインパルスの板倉俊之さんがいます。同じ吉本興行の所属ですので、コロナが収束したらお二人をお呼びして本堂でお笑いをやってみたいものです。実現できたらコロナで暗くなった気分も吹き飛ばすことでしょう。



しゅんしゅんクリニックPこと宮本駿さんのCDと本です

除日の鐘と除夜の鐘



毎年大晦日に、お寺で除夜の鐘を撞くことは日本の冬の風物詩になっています。当山でも、毎年大晦日の午後11時40分から檀家の皆様や近所の皆様とともに108回撞いてきました。

ところが昨年末、新型コロナウイルスの感染が拡大しました。除夜の鐘では、どうしても鐘楼の周辺に人が密集します。そこで日中に除日の鐘、夜に除夜の鐘と2回に分けて撞くことにしました。それぞれ54回ずつで合わせて108回撞きました。

事前に、両毛新聞や住職のフェイスブック、当山のホームページで知らせました。しかし初めてのことで周知が十分でなく、除日の鐘に来た方は二十名くらいでした。それでも小さなお子さんを連れた親子連れもいて、日中の方が子供を連れて来やすいとの声も聞かれました。

今年末にはコロナ禍も収束することを願いますが、収束かどうかにかかわらず、お子さんたちと来やすい様に、大晦日の日中に除日の鐘、夜に除夜の鐘を撞きたいと思います。



大晦日のお昼に除日の鐘を撞きました

空気清浄機を設置



昨年の秋から新型コロナウイルスの感染が再び拡大してきました。冬を迎え、本堂や大広間を締め切ることが多く、十分換気ができなくなりやすくなります。そこで安心して法事ができるように空気清浄機を設置しました。25畳用で大広間に1台、本堂に2台設置しました。

この清浄機では、空気がきれいな状態だとインジケータは青色ですが、空中に微粒子が増えてくると赤くなります。ただ困ったことに、本堂でお焼香をする時、煙に反応してインジケータが赤くなります。決して空気が汚れたわけではないので、檀家の皆様も安心してほしいと思います。



本堂に設置した空気清浄機

新総代に相馬稔さん



昨年の5月、永年総代を務めてこられた岡部功総代が、健康上の理由から総代を辞任されました。岡部総代は平成20年に総代に就任以来、12年にわたり当山の護持に尽力されました。またこの2年半は筆頭総代として、当山の運営にあたり貴重なご助言をいただきました。永年の貢献を表彰して、浄土宗から感謝状が贈られました。



新総代に選出された相馬稔さん

後任の総代について昨年11月に総代会を開催して協議した結果、相馬稔さんを選出しました。相馬さんは両毛ヤクルトやわたらせテレビなどの社長を務めています。また2年前からは足利商工会議所の会頭を務め、足利市の商工業の発展のために尽くしています。

御多忙ですが、当山のために快く総代を引き受けてくださいました。

コロナ禍の法要とお墓参り



コロナ禍のため法事を延期したり、あるいは足利以外にお住まいの方はお墓参りを遠慮したりすることも多いようです。

法事につきましては、昨年の春から玄関に消毒液を置いてきました。また本堂のイスの間隔も十分とっております。

お墓参りにしても水屋に石鹸を2か所置いてあります。手桶は皆さんが使っているので、使い終わった後は石鹸で手を洗うことができます。



鐘楼の側の白梅の花

なお足利まで来て法事をするこを遠慮する檀家の方については、卒塔婆を依頼することもできます。命日などをお知らせ頂きますと、当日の朝に回向して、お墓にお建てします。お墓にお花をお供えしたい場合、あるいは故人の好物などをお供えしたい場合には、お知らせ下されば用意してお供えしますので、お気軽にご依頼ください。